

平成23年度 佐賀県立唐津工業高等学校 学校評価計画

1 学校教育目標	
21世紀を担う心身ともに健康でたくましく、知徳体の調和のとれた、視野の広い、工業や社会の発展に貢献できる人材を育成する。	
2 学校経営ビジョン	
(1) 全ての生徒が安心して学習できる学校、安全に生活できる学校にする。 (2) 教師はよくわかる授業をし、生徒は真剣な態度で授業を受ける学校にする。 (3) 生徒に夢を持たせ、夢を育み、夢の実現に向けて歩ませ、全力でサポートする。 (4) 必要な常識、規範意識(道徳心)、基礎的な知識・技術を身につけさせる。 (5) 保護者や地域との協力・連携を深め、信頼される学校にする。	
3 本年度の重点目標	4 前年度の成果と課題
(1) 学校教育目標の周知と地域への情報発信	PTA総会や地区保護者会で重点目標について説明し、保護者には理解してもらえた。生徒への周知もクラス掲示、全校集会等で周知した。次年度は家庭と学校が連携を図り、充実した取組みができるように試みたい。取り組みと同時にPRも十分に行い、入学志願者の増加につなげる必要がある。
(2) いじめ・暴力行為の防止と早期発見・迅速な対応	学校の基本方針が浸透し、いじめ、暴力行為は激減した。定期および随時の調査と、いじめがあった場合の迅速な対応を継続する。また、心の教育の道徳と連携させた取組みを実施する。
(3) 授業の充実、授業態度の改善	「学習状況調査表」の活用で、チェック内容が教科担任以外にも知らせることができ、改善が見られたが、まだ不十分である。教師側の授業力向上に向けた努力も必要である。授業態度を重視した評価をさらに周知徹底し、自覚を醸成する。
(4) 規範意識の高揚、服装・頭髪の端正さの向上	問題行動による特別指導が増加し、生徒の規範意識、モラルの低下が懸念される。服装・頭髪をはじめ、基本的な生活習慣の確立を徹底する必要がある。
(5) 進路指導の充実	進学、公務員就職については一定の成果は出た。一般就職については全員内で卒業させることができなかった。一次試験での内定率向上など指導の強化が必要である。また、生徒の進路意識の高揚のためにインターンシップや面談など体系的な取組みを強化する必要がある。
(6) 校内の美化	全体的に教室、廊下、トイレ等の整備ができていない。清潔な学習環境は、教育を行うための前提である。生徒、職員の意識を高め、学校全体で「4S」に取り組む必要がある。
(7) 資格取得への意欲の醸成と実績の向上	昨年度の実績は非常によい結果であった。学習意欲、進路意識の高揚などと関連させ、更に系統的な計画・指導が必要である。学校活性化の観点からも重要な課題になる。
(8) 部活動の活性化	魅力のある部活動と、実績の向上は、生徒に誇りと自信を持たせることにつながる。入部率を高めて、より充実した部活動にすることは、中学生をはじめ、外部に対するPRになり、ひいては、志願者数の増加にもつながる。

5 総括表				
(1) 学校教育目標の周知と地域への情報発信				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	○学校経営方針	学校経営ビジョン及び重点目標の周知とその達成度	保護者や生徒の重点目標の周知度を70%以上にする。 学校経営ビジョン及び重点目標については「学校はよく努力している」と評価する保護者や生徒の割合を80%以上にする。	<ul style="list-style-type: none"> 保護者に対しては、PTA総会、地区保護者会、唐工ニュースで周知をはかる。 生徒に対しては、重点目標を教室に掲示したり、全校集会で説明して周知を図る。 学校経営ビジョン、重点目標の達成に向けて一つ一つの取り組みを徹底する。
		地域に信頼される学校づくりに向けた情報公開	高校入試志願率の向上(定員の1.2倍を確保)	<ul style="list-style-type: none"> 学校だよりなどを通じて活躍する生徒の情報を地域へ発信するとともに、体験入学、高校説明会等で魅力をPRする方法を改善し、中学校回りも積極的にを行う。
(2) いじめ・暴力行為の防止と早期発見・迅速な対応				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	○生徒指導	いじめや暴力行為の防止	いじめの早期解決と暴力行為をなくす。	<ul style="list-style-type: none"> ホームルーム活動や全校集会などで、他人を思いやる心情、自他の人権を尊重する態度を育む。 面談・アンケート等を行い問題の早期発見・解決に努める。
(3) 授業の充実、授業態度の改善				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●学力向上	授業態度の改善(昨年度からの継続)	授業中の態度を成績の一部として評価する。好ましい授業の雰囲気を作り、全員が真剣な態度で受けるよう指導する。	<ul style="list-style-type: none"> 「学習状況調査記入簿」を活用し、各授業中の生徒の学習状況を逐一記録して、指導が必要であれば厳しく対処し改善を促す。 学習評価において、授業態度を大幅に重視(35%)することを周知徹底し、生徒の自覚を促しながら改善を図る。
(4) 規範意識の高揚、服装・頭髪の端正さの向上				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	○生徒指導	頭髪・服装指導の改善	普段の身だしなみを向上させ、さらに頭髪・服装検査不合格者を昨年度より減少させる。	<ul style="list-style-type: none"> 3人担任制を有効に運用することにより、改善を図る。 頭髪・服装検査の見直し。 普段の着こなしに対する新たな指導方法を確立する。 イエローカードの活用。
		道徳教育の推進	規範意識、公共モラル・マナー、自他の生命尊重など、人格形成の一助となることを目指す。	<ul style="list-style-type: none"> 月3回、10分間の「ヒューマントレーニング」を実施する。 予め設定したテーマに対して生徒が感じたままを意見として書き、回収した後、担任・教務等で検証し、しっかりした意見等については中央廊下や教室に掲示する。 心に響く、心を揺さぶる刺激を与えるような意見は学校HPに掲載するなど、保護者にも子どもたちが考えていること紹介する。
	●心の教育	ボランティア活動への積極的参加	生徒会主催のボランティア活動への全員参加及び各種団体主催のボランティア活動への20名程度の自主参加を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> 毎学期学校周辺での清掃活動を実施し、唐津特別支援学校行事への参加、社会福祉協議会等主催のボランティア活動に自主参加することを促す。

(5)進路指導の充実				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	○進路指導	進路保障	生徒が主体的に進路を選択し、卒業までに進路先が100%決定できるように指導する。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の就職・進学の実現を目指して基礎学力の向上に努める。 会社訪問を行い、職場開拓や求人会社の情報を生徒に提供する。 進学希望者については、1年時に進学意志の確認と高揚に努め、基礎教科について個別指導を行う。
(6)校内の美化				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	○環境整備	校内の美化	職員・生徒が日頃からきれいな環境で過ごしたいと思う気持ちを高め、校内が美しくなるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> “4Sの実行(整理・整頓・清掃・清潔)”の張り紙を掲示する。 教室の校内美化点検を毎週末行い、結果を担任へ報告する。 授業の始まりに、机の整列・ハック類の整頓・塵拾いを実施する。 ゴミ分別を行うとともに資源物(紙類)を回収し、環境に配慮する。
(7)資格取得への意欲の醸成と実績の向上				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●学力向上	基礎学力の定着と夢の実現	学力が低い生徒には、確かな基礎学力をつけさせる。また、出口である3年生の就職試験は希望通りの合格が出来るようにする。	<ul style="list-style-type: none"> 1年生で特に数学の基礎学力が低い生徒を抽出し、全職員で毎日3名ずつの輪番にて1学期中補習指導を行い、分かる授業へ結びつける。 進路指導部とも連携し、特に3年生については基礎学力を定着させ就職試験は1回目の試験で合格できるよう全職員で取り組むよう計画する。
		資格取得の推進	資格試験の合格率を前年度より10%アップする。	<ul style="list-style-type: none"> 「資格試験ハンドブック」を有効に活用し、各自が卒業までに取得を希望する資格を決めさせる。 資格取得の意義を理解させ、資格取得状況を掲示するなどして、意識の向上を図る。
(8)部活動の活性化				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	○特別活動	部活動の活性化	部活動の加入を奨励し、加入率を前年度より10%増加させ、活動の活性化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 入学式、PTA総会などで部活動の教育的効果、人格形成に対する効果などを説明し入部を奨励し、1年性の入部率を向上させる。 部活動の活動状況を学校だよりやHPIに積極的に掲載し、校内、校外に積極的にPRする。
本年度の重点目標に含まれない共通評価項目				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的な評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●健康・体づくり	望ましい生活習慣の形成	体調不良による遅刻、早退、欠席の減数。	<ul style="list-style-type: none"> 健康調査を実施し、生活習慣、健康課題への意識・行動の実態を把握する。 HRの折りに、保健だよりを活用し、疾病予防、食事・運動・休養などで健康な生活の仕方を理解させる。

●は共通評価項目、○は独自評価項目